石岡市立東成井小学校
学校だより　２７号
令和５年１１月２４日
校長　　石﨑　重臣

太郎・次郎

「太郎・次郎」は，校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】児童が主役　みつけよう　かんがえよう　やってみよう～認める　寄り添う　支える～

先生たちも勉強中！

１１月も半分を過ぎて、冬休みまで残り１か月となりました。落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができるこの時期は、より集中して学習に取り組める時期とも言えます。今回は、本校教職員が取り組んでいる校内研修についてご紹介いたします。

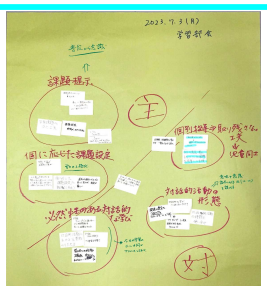
この校内研修は、学校課題の解決や教員の資質能力の向上を目指して、同僚の教職員とともに学校組織の中で行うものです。具体的には次のような成果を目指します。

①学校の教育目標を効果的に具現化するために，**教育活動の充実・改善**が図られる。②学校の教育目標や教育課題について**教職員間の共通理解**が図られる。③研修をＲ【実態把握】Ｐ【目標設定】Ｄ【実行】Ｃ【評価】Ａ【改善】のサイクルで展開することにより，**学校全体としての課題解決能力**が高められる。

校内研修は、学習指導をはじめ、保健安全指導、生徒指導、特別支援教育など多岐にわたって計画され、１１月は「学習指導」を中心に研修を進めています。

令和５年度　東成井小学校校内研修　研究主題

「主体的・対話的で深い学び」を実現する児童の育成
ー　個に応じた多様な指導方法の工夫を通して　ー



○　授業展開に当たって特に重視する点
①　課題の設定　　②　対話・交流場面の設定　　③　ICTの工夫

学習指導の研修では、「授業のユニバーサルデザイン化（焦点化、視覚化、共有化）」を図ることによって、すべての児童が楽しく授業に取り組めることを目指しています。そこで、子どもたち自身が「問い」をもてるような課題づくり、意見や考えを表現、発信できるような学び合い活動の設定、自ら課題を解決していくためのＩＣＴ活用を取り入れ、分かりやすい授業づくりについて研修を深めているところです。加えて、特別支援教育の視点をもって学習支援にあたることで、「個別最適な学び」「協働的な学び」を軸とした授業づくりへの発展が期待されます。

「令和５年度学校教育指導方針（茨城県教育委員会）」では、学校教育推進の重点事項として、「豊かな学びの展開」を掲げています。いわゆる、**子どもたちの「アウトプット」を重視した学習**です。「アウトプット」の要素は、**「話す」「書く」「やってみる」**です。これらの力が身に付けられる授業づくりに向けて、東成井小の教職員も日々研修をしております。本日の授業参観で、授業に表れている研修の取組をご覧いただけましたら幸いです。